

統計法施行状況審議結果のまとめ

平成 26 年度統計法施行状況に関する審議結果報告書（未諮問基幹統計確認関連分） （平成 28 年 3 月 22 日、内閣府統計委員会）	平成 27 年度統計法施行状況に関する審議結果報告書（平成 28 年度上半期審議分） （平成 28 年 10 月 7 日、総務省統計委員会）
<p>2 毎月勤労統計 （2）確認結果 イ ギャップの縮減・補正に向けた方法・効果等について （イ）賃金・労働時間指数のギャップ補正方法について</p> <p>（前略）現在の指数の作成方法では、標本抽出替え時に新旧標本の一人平均賃金額にギャップが生じた際に新標本の結果を採用し、それを基に過去に遡って指数に技術的な補正を加え、前年同月比等を改訂している。平成 27 年 1 月の標本抽出替え時には、改訂によって前年同月比が増加から減少に転じた月もある。このことが利用者にとって分かりにくいという意見があり、また、景気指標として用いる際には、賃金が増加又は減少しているかの判断にも影響が生じる可能性もある。</p> <p>そこで、<u>厚生労働省では、利用者にとっての分かりやすさ等を総合的に勘案して、過去に遡って指数や前年同月比を改訂しない方法への変更を検討している</u>（労働者数の基準数値の更新時の扱いも同様。）。検討中のものとして具体的に示された一案は、標本の抽出替え後には、それまでの基準数値にギャップ率を乗じた新しい基準数値で、当該月の一人平均賃金額を除して 100 倍するもので、<u>この方法によると過去の指数にそのまま標本抽出替え後の指数が接続されることになる</u>。厚生労働省は、引き続き本統計の指数の役割も踏まえ検討していくこととしている。</p> <p>厚生労働省で検討中の指数の作成方法に対し、過去に遡って改訂しないことはユーザーにとって望ましい一面もあるとの意見がある一方で、（略）③分布全体をみる統計としての平均値を見る場合と景気指標として見る場合に求められるものは異なり、平均値としては従前の指数で問題ないが、<u>景気指標として見る場合には同じ事業所の平均賃金の変化が重要で、ギャップが発生しない継続標本による指標を作成し、参考系列として公表していくのが望ましいとの意見があった</u>。特に③の意見については複数の委員から同様の意見が示された。（略）</p> <p>ローテーション・サンプリングの導入や毎年の事業所母集団データベースの使用が実現すればギャップの縮小は見込まれるものの、それでも発生するギャップに対応した指数の作成方法については、本統計の意図しているものや期待される役割を考慮して、引き続き厚生労働省において検討していく必要がある。その際、<u>ローテーション・サンプリングの下、継続標本を利用して指数を作成し、参考系列として提供していくことについても検討する必要がある</u>。</p> <p>（課題解決に向けた今後の取組の方向性）</p> <ul style="list-style-type: none"> 賃金・労働時間指数の補正方法について、本統計の意図しているものや期待される役割を考慮し、引き続き検討していく必要がある。（平成 28 年度中に想定している統計委員会への諮問時期までに検討結果を得る） その際、ローテーション・サンプリングの下、<u>継続標本を利用して指数を作成し、参考系列として提供していくことについても検討する必要がある</u>。（平成 28 年度中に想定している統計委員会への諮問時期までに検討結果を得る） 	<p>Ⅲ 横断的課題に関する審議結果 （2）望ましい方法</p> <p>新旧データ接続検討ワーキンググループ（以下「ワーキンググループ」という。）では、今後の各種統計調査の接続方法の改善を目指して「サンプル替えに伴い遡及改訂する際の過去サンプルとの整合性確保のあり方」に関して集中的に審議を行い、その結果を横断的課題検討部会に報告した。横断的課題検討部会は、その報告内容を了承した。</p> <p>（2）望ましい方法 以上の実態把握を踏まえ、ワーキンググループでは月次又は四半期で行われる無作為標本調査に該当する各種統計調査の接続方法に係る「望ましい方法」（good practice）として次のとおり結論付けた。</p> <p>① 標本交替による断層への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 標本交替が分析結果に大きな影響を与えないよう、断層が過度に広がる前に標本を交替させる。 <u>それを前提として新旧計数をそのまま接続する。</u> （略） <p>また、上記の「望ましい方法」を補完するものとして「特性に応じた対応が望ましい方法」を次のとおり取りまとめた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 標本交替に際し、ユーザーニーズが強いものに関しては、<u>継続標本による参考値の作成を検討する</u>... 個々の抽出された単位の調査期間が長いものに関しては、ローテーション・サンプリングの実施を検討する。 （略）

（注 1）太下線は、指数の接続に関する部分、点線は、継続指数に関する部分

（注 2）新旧データ接続検討ワーキンググループにおいては、ローテーション・サンプリングの導入を前提として新旧計数の直接接続が述べられており、母集団情報が大きく変更される場合の取扱いについては直接には議論されていない。